

➤ 18日 月曜

へブル

10:1 律法には来たるべき良きものの影はあっても、その実物はありません。ですから律法は、年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって神に近づく人々を、完全にすることができません。

10:2 それができたのなら、礼拝する人たちは一度できよめられて、もはや罪を意識することがなくなるので、いけにえを献げることは終わったはずです。

10:3 ところがむしろ、これらのいけにえによって罪が年ごとに思い出されるのです。

10:4 雄牛と雄やぎの血は罪を除くことができないからです。

10:5 ですからキリストは、この世界に来てこう言われました。「あなたは、いけにえやささげ物をお求めにならないで、わたしに、からだを備えてくださいました。

10:6 全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物をあなたは、お喜びにはなりませんでした。

10:7 そのとき、わたしは申しました。『今、わたしはここに来ております。巻物の書にわたしのことが書いてあります。神よ、あなたのみこころを行うために。』」

10:8 以上のとおり、キリストは「あなたは、いけにえやささげ物、全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物、すなわち、律法にしたがって献げられる、いろいろな物を望まず、またそれらをお喜びになりませんでした」と言い、

10:9 それから、「今、わたしはあなたのみこころを行うために来ました」と言われました。第二のものを立てるために、初めのものを廃止されるのです。



10:10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。

律法は罪の自覚をもたらしますが、罪からの救いやきよめはありません。ですから私たちも、罪を自覚するだけでは足りません。また罪を言い表すだけでは足りないのです。言い表すならそれは神の御前でなくてはならず、ヨハネの手紙にあるように「御子イエスの血」が必要なのです。

「イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされている」とありますから、その確信を持って、イエスの血によってきよい者とならせていただきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主に扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

